



看護実習を受け入れて

・・・短い実習期間に 有意義な時間・・・

施設サービス課 三輪 久美子

7月9～11日と16～18日の3日間で 合計9名の県立大学看護学部の学生がむつみ荘に実習にきました。施設実習の目的は ①介護保険施設で生活する高齢者の 生活史や現在の生活状況とその思いを知り、**老年期を生きる人の体験**を知る。②介護保険施設の特性や地域包括ケアシステムを踏まえ、**施設で提供される援助について理解**する。③高齢者へ提供される援助への参加・見学を通して、**高齢者が尊重される支援のあり方について理解を深める**です。

初めにオリエンテーションをした際、学生の方は緊張した面持ちでした。実際に学生に話をきくと 高齢者と接したことや高齢者と話をしたことがないばかりでした。「話を
する際には どうしたらよいか?」「何を尋ねたらいいか?」など不安な気持ちが沢山あ
ったようです。実際に接してもらくと **入所者の方々は、孫や曾孫世代である看護学生の方に
優しく詳細に、今までの経験談・施設での生活・以前の生活等々のことを話されていま
した。**学生の方も入所者の方々の話に興味を持ち **真剣にメモを取ったり・質問したり・一
緒に折り紙をされたり**していました。また **学生の方と接している時間は 絶えずに 笑顔が
あふれていたことが非常に印象的**でした。

学生の方はリハビリ・入浴・排泄・食事介助の見学なども行い **施設の入所者の 一日の
生活を体験**してもらいました。その中でも **17日に開催した“おやつクッキング”**に学生
の方は興味をもたれたようでした。施設では提供されたものを食べるだけだと思っていたが、
おやつクッキングで入所者が会話をしながら職員と共に**おやつを作り上げていく姿をみ
て 自分自身で作業し形あるものを作り上げていく工程はやりがいをもたらすもの**だと思
った。また一緒にいる職員も「**手伝ってくれてありがとうございます**」と声をかけ
ており、**入所者にさせているのではなく 手伝ってもらっている姿勢が、入所者の達成感に
繋がっているのだと感想**を述べていました。

入浴介助をする際に嫌な顔をせず、**笑顔を絶やさず生活のお手伝いをさせて**頂いている
という**尊重する姿勢**で接しておられました。**“高齢者が施設で自分らしく生活していける
のだなーあ！”**と感想を述べてました。

木口相談員より介護保険制度のレクチャーの中で、「今後 **高齢化は進み 介護の担い手が
少なくなる**ことが**予想**される」と聞き、学生は「**そのような時代に看護職を志す者として、**